

一般社団法人日本呼吸療法医学会
2018 年度（第 41 期）第 4 回理事会 議事録

日 時：2019 年 8 月 2 日（金）14：00～15：00

場 所：グランキューブ大阪 12 階 1201 会議室

出席者：藤野裕士（理事長）、今中秀光、尾崎孝平、落合亮一、竹田晋浩、西田 修、
布宮 伸、志馬伸朗、大塚将秀、神津 玲、陳 和夫、山本信章（各理事）
川前金幸、橋本 悟（監事）

欠席者：茂呂悦子（理事） [敬称略]

陪 席：第 42 回学術集会会長補佐 2 名
山崎由華、小笠原聡（事務局）

【開 会】（藤野理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席があることが報告され、開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前回議事録は、原案通り承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 1 件、連絡 4 件）決定事項の承認（藤野理事長）

- ・審議 1 件の決定事項を承認し、連絡事項 4 件を確認した。

3. 学術集会報告・準備状況

1) 第 41 回学術集会準備状況（藤野会長）

- ・事前参加登録者数が 1,000 名を超えたことが報告された。

2) 第 42 回学術集会準備状況（志馬副会長）

- ・2020 年 6 月 27 日（土）・28 日（日）に国立京都国際会館で開催する。
- ・ポスターが完成し、理事会・定時社員総会・学術集会にて配布・告知を行う。開催まで 11 か月を切っており、プログラムを早々に固めて指定演者へ依頼を行い、一般演題は 2019 年の年末から 2020 年の 1 月末にかけて募集する予定であることが報告された。

3) 第 43 回学術集会準備状況（大塚副会長）

- ・2021 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）にパシフィコ横浜で開催する。
- ・若手を登用し、多職種の参画を促す企画を検討していく方針が報告された。

4. 事業報告

1) ECMO/PCPS 新教科書の進捗など（竹田担当理事）

- ・執筆者と依頼内容の最終確認が終了し、学術集会後に、2019 年 12 月末を締切とし

て執筆依頼することが報告された。

- ・ Red Book に匹敵する本邦 ECMO 治療のバイブル的書籍を目指すため、共同編者によるピアレビューを行う旨もお伝えしたうえで執筆依頼を行う。

5. 各委員会報告

1) セミナー委員会内規の改正について（大塚担当理事）

- ・ 持ち回り理事会 41-8 において承認されたとおり、定時社員総会で行っていたセミナー事業の単独収支報告は割愛することが報告された。

2) 学術研究推進委員会開催報告（志馬委員長）

- ・ 7/18 に委員会を開催したことが報告された。臨床研究の推進と基礎研究の推進の双方において、学会主導で進めていく方針を確認した。
- ・ 臨床研究については、人工呼吸領域を中心に、急性期に限らず慢性期も含め、多職種の参画が見込める内容を支援し、各委員会で進めている症例登録プロジェクトについても本委員会で集約していく方針が報告された。
- ・ 研究費についても、学会を通じて企業などに寄付金の募集を行っていくことが報告された。

6. その他

1) 『改訂人工呼吸ハンドブック 2019』について（藤野理事長）

- ・ 現在、各論は初校の最終確認を協賛企業が行っており、総論は 2014 年版の内容を流用できるかどうか編集委員会で確認中であることが報告された。総論・各論が整い次第、丸川征四郎名誉会員に監修あいさつ文の執筆依頼を行う。

2) 2019 年度（第 42 期）理事会日程について（藤野理事長）

第 1 回 2019 年 10 月 31 日（木）東京 第 3 回 2020 年 5 月 14 日（木）東京
第 2 回 2020 年 2 月 6 日（木）東京 第 4 回 6 月 26 日（金）京都

- ・ 上記のとおり、次期年間予定が報告された。
- ・ 次期からは、理事会の前に将来計画・財務委員会を開催する。

II. 審議事項

1. 2019 年度予算案について（大塚担当理事）

- ・ 事前配布資料の前年度繰越利益額に誤りがあったため、本理事会ならびに定時社員総会用の差替え版が配信されたことが報告された。

<収 入>

- ・ 年会費：2019 年 6 月 1 日時点の会員数に基づいて計上した。
- ・ 事業収入：医学会セミナーは例年どおり年 2 回実施するが、医師向けセミナーは年 3 回になるため、年 4 回実施した前年度決算額に比べて 180 万円減となっている。

ECMO プロジェクトはシミュレーション・ラボの開催が前年度は 1 回のみであったが本年度は例年どおり 2 回を予定しており、2 回分の参加費 180

万円を計上した。

- ・ 広告費：2号の広告費は表回り全箇所掲載を見込んだ額とした。
1号の広告費・ユーザーレポートについては実費を計上した。
- ・ 機関誌販売等収入：別刷販売が、前年度は賛助会員数社から 240 万円強の注文があったが、本年度は従来水準の 2 社 12,000 部の注文を想定し 90 万円を計上した。
- ・ 書籍等販売収入：『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』は前年度で完売したため本年度は 0 円とした。
- ・ 学術集会収入：運営事務局作成の予算案とおり計上した。
- ・ 以上、当期収入予算は 124,877,500 円で、前年度繰越利益 50,086,822 円をあわせて収入総計予算は 174,964,322 円となった。

<支 出>

- ・ 機関誌発行諸経費：前年度決算を参考にして計上した。
- ・ 書籍販売費：『改訂人工呼吸ハンドブック 2019』の制作費 90 万円を計上した。
- ・ 事業費：医学会セミナーは例年どおり、医師向けセミナーは前年度から 1 回減となる年 3 回の開催、ECMO プロジェクトシミュレーション・ラボは前年度から 1 回増となる年 2 回の開催として計上した。その他、RST 事務経費をあわせ、総額 17,279 千円を計上した。
- ・ 委員会費：各委員会からの申請額どおりに計上した。
- ・ 学術集会費：運営事務局作成の予算案とおり計上した。また、本年度の学術集会寄付金見込額 350 万円を計上した。
- ・ 専門医等運営費：『呼吸療法専門医テキスト 2019』の編集費、筆記試験の運営費など合計 45 万円を計上した。
- ・ その他：理事会費・交際費・社員総会費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・雑費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・ 以上、当期支出予算は 120,807,897 円、次年度繰越利益が 54,156,425 円となった。

<収支合計>

- ・ 単年度の収支は約 400 万円の黒字予算となることが報告された。
- ・ 以上、2019 年度予算について提案し、本理事会で承認を得た。本案を社員総会に提出し可否を諮るものとする。

2. 各委員会からの審議事項

1) ECMO 症例登録における RED Cap システムの導入について（藤野理事長）

- ・ 現在の ECMO プロジェクトのレジストリは日本集中治療医学会との折半でシステムを利用しているが、データ加工においては RED Cap のほうが汎用性は高く、RED Cap システムへの移行について提案があった。本来、RED Cap 導入のための初期費用は 100 万円程度必要となるが、大阪大学が所持しているアカウントを利用できるため、年間利用料（20 万円）のみで移行できる。1 例当たりの登録料は、各研究者

に支払いを依頼する方向で進める。

- ・現レジストリからのデータ移行をどこが担当するかについては今後検討する。
- ・ECMO プロジェクトのレジストリを RED Cap に移行することについて、日本集中治療医学会と使用料を折半する方針も含め、承認された。

2) 『人工呼吸』誌の電子化について

- ・機関誌の電子化について理事から提案があった。日本救急医学会は既にオンラインジャーナル化しており、その他の関連学会でも進んでいることが報告された。
- ・発行部数が多いところほど経費削減効果は大きく、本会においてはそれほどの効果が見込めない可能性が指摘された。印刷物としての機関誌が実際に届かなければ読まれなくなることを危惧する意見もあった。
- ・事務局でオンライン化した場合の試算を行い、次回の理事会で審議を行う。オンライン化する場合は会員専用ページの個別 ID・Password 付与も必要となり、あわせて見積もりを行う。